



農産物の検査を行う検査員。「農家の店しんしん」店頭でも受け付けるつくば市千現のつくば分析センター

つくば分析センター

農産物検査で生産者支援

アイアグリと業務提携

分析検査サービスのつくば分析センター(つくば市千現、海老沼英夫社長)は、個人や法人の農産物生産者を対象にした放射性物質や残留農薬の検査について、農業資材販売などのアイアグリ(土浦市北神立町、玉造和男社長)の販売店「農家の店しんしん」で受け付けを始めた。両社間で業務提携を結んだ。福島第1原発事故の風評被害払拭をはじめ、安全・安心な農産物の出荷を支援する。

検査の受け付けをはじめたのは、県内のアイアグリ直営「しんしん」の美野里、江戸崎、玉造、神立、岩瀬、石下、関城、鉾田、伊奈の9店舗。検査を受けたい生産者は同センターに申し込み、検査する農産物を最寄りの「しんしん」に持ち込む。受け付けた店は同センターに検体を発送。検査を行い検査結果報告書を生産者に送る。

検査の受け付けは生産者の送料負担はない。現在は遠方から同センターに農産物を持ち込んだり、宅配便で送っていた生産者が多く、店頭受け付けで費用の負担も軽減する。

検査対象は、農産物の安全性を証明する上で重要な「残留農薬」、放射性物質、カドミウムなどの検査など。残留農薬は、稲や野菜に使う農薬から200〜250種を選び検査する。

放射性物質はヨウ素、セシウムを1鶏当たり20〜数μまで精密に測る。

検体受け付け後、最速で3営業日で結果を生産者に報告する。同センターは国際標準化機構(ISO)などの認定試験所を、残留農薬に加え放射性物質でも新たに取得。信頼性の高い試験結果を提供し、輸出にも対応する。

両社は利用状況をみて、直営店のほかフランチャイズ店への拡大や、土壌検査の受け付けも検討。同センターは「消費者の食の安全に対する関心の高まりから科学的な検査を提供していく」としている。

(綿引正雄)